医療・介護の提供体制の将来像の例

～機能分化し重層的に住民を支える医療・介護サービスのネットワーク構築～

資料1

○日常生活圏域内において、医療、介護、予防、住まいが切れ目なく、継続的かつ一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の確立を図る。
○小・中学校区レベル（人口１万人程度の圏域）において日常的な医療・介護サービスが提供され、人口20～30万人レベルで地域の基幹病院機能、都道府県レベルで救命救急・がんなどの高度医療への体制を整備。

医療提供体制の充実と重点化・効率化
都道府県域から市町村域まで、重層的に医療サービスを提供

&

地域包括ケアの実現（包括的ケアマネジメントの機能強化）
※　体制整備は被災地のコミュニティ復興において先駆的に実施することも検討

市町村レベル：
主治医（総合医を含む）による日常の診療対応

診療所の機能強化
外来・往診、在宅支援

地域の多様なニーズに対応

地域に密着した病院

特養、老健施設等

人口20～30万レベル：
救急病院など地域の基幹病院を中心とする医療機関のネットワーク

機能分化・連携強化、効率化・重点化

救急病院・専門病院

連携

リハビリ等を担う病院

医師数増などの強化・重点化

リハ機能の強化
速やかな在院復帰

在院日数減

早期の地域復帰・家庭復帰

救急患者の確実な受入れ

地域連携の強化

認知症等専門医療へ円滑な紹介

都道府県レベル：
救命救急、高度な医療など広域ニーズへの対応体制整備

高度な医療を提供する病院

がん治療や高度先進医療

ドクターヘリなど広域救急

小・中学校区レベル（※）：
日常生活の継続支援に必要な医療・介護サービス提供体制

複合型サービス

小規模多機能

グループホーム

地域密着型特養

訪問看護

地域で安心して暮らし続けられるよう整備

在宅医療連携拠点機能

包括的マネジメント機能

地域包括支援センター

ケア付き高齢者住宅

専門医療に円滑に紹介

かかりつけ医

30分以内に訪問

緊急時も確実に入院可能

ケアマネジャー

24時間地域巡回型訪問サービス

在宅療養支援診療所、有床診療所、薬局等

自らの住まいで終末期まで生活（医療・介護の連携）

休日・深夜でも安心

医療人材

介護人材（ヘルパー等）

新しい公共（パートナーシップ）＝地域の支え合い

認知症サポーター

生活・介護支援サポーター

NPO、住民参加等

※　人口１万人程度の圏域。